

# 「共通事項」を考える（4）（小学校図画工作）

(2013/10/25)

## ～ 第5学年及び第6学年 ～

今回の改訂で新設された「共通事項」について考えていきます。

まず、「共通事項」について、再確認しましょう。  
学習指導要領解説には、次のように書かれています。

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示す。指導において、自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基にイメージを持つことが十分に行われるようにする。

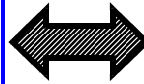
（小学校学習指導要領解説図画工作編 第1章総説 3 図画工作科改定の要点 (2)内容の改善 ウ共通事項の新設）

つまり、「共通事項」とは

### 「表現及び鑑賞の活動で共通に必要な資質や能力」

であり、具体的には次の2つの能力となります。これらは相互に関連し合っています。

（ア）児童が、見たり触ったり持ち上げたり動かしたりして、主体的・能動的に対象に関わり、造形的な特徴（形や色、線や面、動きや奥行き）をとらえる能力



（イ）造形的な特徴を基に、心の中に、像や全体的な感じ、情景、姿を思い浮かべるなどして、自分のイメージを持つ能力

※ 相互に関連とは、（ア）から引き続いて（イ）が発揮されたり、（イ）を基に（ア）の形や色をとらえたりするということです。

さらに、小学校学習指導要領解説図画工作編のP.19～20に、次のように詳しく書かれています。（要約）

- 共通事項は、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に働いている資質や能力であり、造形活動や鑑賞活動を豊かにするための指導事項
- 形や色からくるイメージなどは、表現及び鑑賞の活動で発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせる際の具体的な手がかり
- 「共通事項」が表現や鑑賞の領域の活動などの全体にかかわる事項
- 共通事項で示している内容は、対象に対して感性を働かせる児童の具体的な姿であるとともに、形や色、イメージなどを言葉のように使いながら生活や社会と豊かに関わるコミュニケーション能力の基盤となるもの

### 発達段階ごとの共通事項

学 年	（ア）	（イ）
第1学年及び第2学年	自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。	形や色などを基に、自分のイメージを持つこと。
第3学年及び第4学年	自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。	形や色などの感じを基に、自分のイメージを持つこと。
第5学年及び第6学年	自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。

## 第5学年及び第6学年の〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
  - イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。

### 1 第5学年及び第6学年の児童の造形要素に対する実態

- 対象や出来事から特徴を取り出すことができるようになるとともに、それを言葉に置き換えて説明することができるようになります。
- 結果を予想したり、条件を基に可能性を検討したりするなど、論理的な進め方が可能になります。
  - ※ 例えば、三角形は矢印みたいだから並べれば進むような動きが出る。赤は元気な感じがするから画面の周りを赤で塗った、などです。
- イメージについては、自分の表現の効果と関連付けて考えたり、話合いで共通のテーマにしたりするなど、いろいろな方法でこれを応用できるようになります。
  - ※ 例えば、非常口のサインや漫画など、社会的に広く流通している図像や情報を学習の材料として利用できるようにもなります。

このような実態を踏まえて、次の〔共通事項〕を指導します。

「ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。」について

これは、児童が自らの感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえることを示しています。

「自分の感覚や活動」とは、見たことから連想される音や匂い、手や身体全体の感覚、ひとつひとつの造形的な行為や活動などのことです。高学年では、文化に影響を受けた感覚や知識的な見方なども含むようになります。例えば、児童によっては、高い建物を上に行くにしたがって小さく斜めに表すことがあります。これは児童の育った文化的なものの見方が反映されている様子です。ただし、ひとりひとりの発達の違いによって感じ方や捉え方が異なることに配慮する必要があります。

「形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえる」とは、児童が自分の感覚や活動に基づいて感じた形や色、動き、空間、奥行きなどの造形的な特徴をとらえることを示しています。

例えば、

「形そのものがもつ方向感」 「表面の材質感の違い」 「色の明るさや鮮やかさ」  
「時間的な変化の動き」 「大きな建物の量感や奥行きの感じ」  
「ものの動きやバランス」 「材料や用具」

### 指導のポイント

- 形や色などの特徴について児童自身が気づき、表現を深めるようにする必要があります。
  - 例えば、
    - ※ 児童が、形や色、動きや奥行きなどを表現や鑑賞の活動で上手に活用している姿をとらえて、称賛したり、全体に紹介するなどして、児童の活動をねらいにそった具体的なものにしていきましょう。

「イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。」について

これは、自分の感覚や活動を通してとらえた形や色などの造形的な特徴を基に、児童が自分なりのイメージをもつことを示しています。高学年の段階では、外観から立体の構造や空間を把握したり、心に描いた情景や像などから形や色を考えたりするなど、中学年以上に具体的な特徴に即してイメージを持つことを示しています。

例えば、

- 光の当たる場所に透明の傘をつるし、光が交錯する情景を想像する。
- 非常口のサインを基に、人の形を増やしたり、色を変えたりして新しいメッセージをつくる。
  - ※ このように、造形的な特徴を関連付けたり、まとめたりできるようになるとともに、イメージを友人と調整しながら共有したり、新しい自分のイメージをつくり出したりするなど、イメージを操作しながら表現や鑑賞の活動を展開できるようになります。ただし、高学年においてもイメージを直感的に持つことは重要であり、自分の気持ちや経験と密接に関連していたり、曖昧で一般的なものであったりします。

#### 指導のポイント

- 児童自身が、自分の心に浮かんだイメージを具体化するための手立てを行っていきましょう。
  - ※ 自分の表現で大事にしている主題は何か、それはどの形や色から分かるのか、簡単な絵で書きとめさせたり、言葉で表させたりする。
  - ※ 鑑賞活動において、作品から得た自分の印象や情景、全体的な感じなどを、形や色の造形的な特徴から説明させる機会を設けたり、友人と話し合う際の根拠として用いるようにする。

#### 留意点

- 上記、ア、イを実現するために次のことに配慮しましょう。
  - ※ いろいろな種類の筆や刷毛、スポンジ、自作の筆等を準備するなどして用具を工夫し、線や面、点などの造形的な特徴がはっきり表れるようにしましょう。
  - ※ 児童の自己評価のためのワークシート等を、形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点から見直し、具体的にしましょう。
  - ※ 自分たちの作品を交互に鑑賞する時間で、自分の感じたことや考えことについて根拠を明確にして友人と語り合わせることも効果的です。
  - ※ 作品の鑑賞では、ワークシートを用いて書く活動を取り入れることで、児童がとらえた形や色、心に思い浮かべたイメージなどを具体的にすることも考えられます。



次回から、中学校の「共通事項」について考えていきます。次回は、全体を概観してみます。

11月1日（金）頃アップの予定です。